

令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立高木瀬小学校

5月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。この概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和3年5月27日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

- ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面に関する調査 (例) 国語・英語への興味・関心, 授業内容の理解度, 読書時間, 勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組, 指導方法の工夫, 学校運営に関する取組, 家庭・地域との連携の状況など

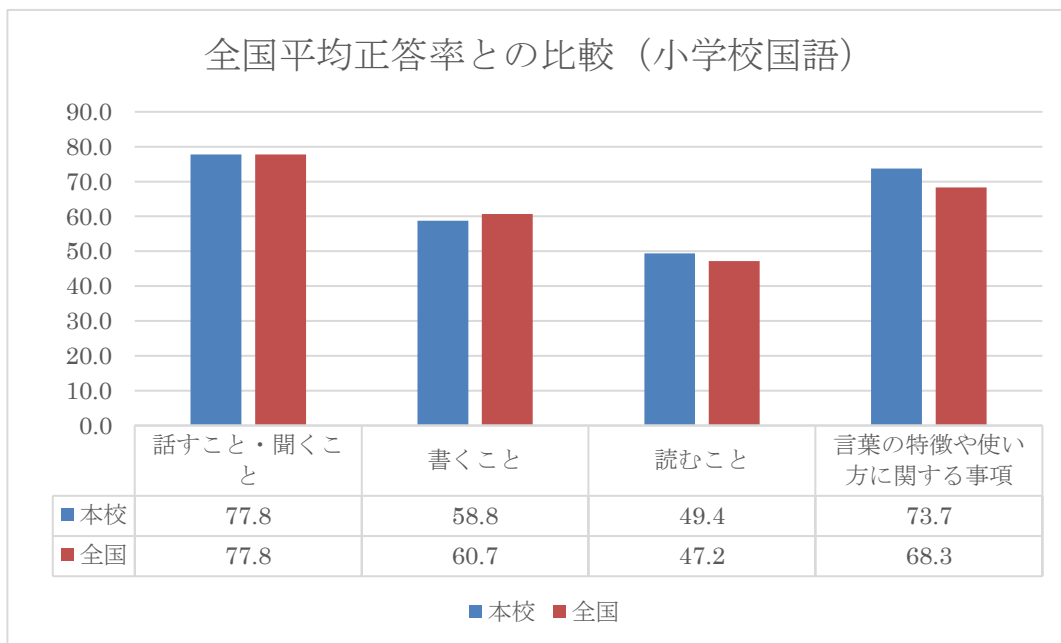
☆ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果



「話す・聞く能力」は全国平均正答率と同じ水準でした。「書く能力」は全国平均正答率よりも1.9ポイント低い結果でした。「読む能力」は全国平均正答率より2.2ポイント、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は5.4ポイント上回っていました。

無回答率は、ほぼ全問題で全国平均よりも低い結果でした。

(2) 成果と課題

国語科の「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言語についての知識及び技能」の各領域において総合的に学習の成果が現れています。

「書くこと」において、全国平均正答率より低い問題の出題形式の結果をみると、条件に沿って指定された字数で書く「記述式」の正答率が伸びていませんでした。

今後も、条件に沿った言葉を使い、正確に記述する力を付ける学習場面を設けていく必要があります。

(3) 学力向上のための取組

【学校では】

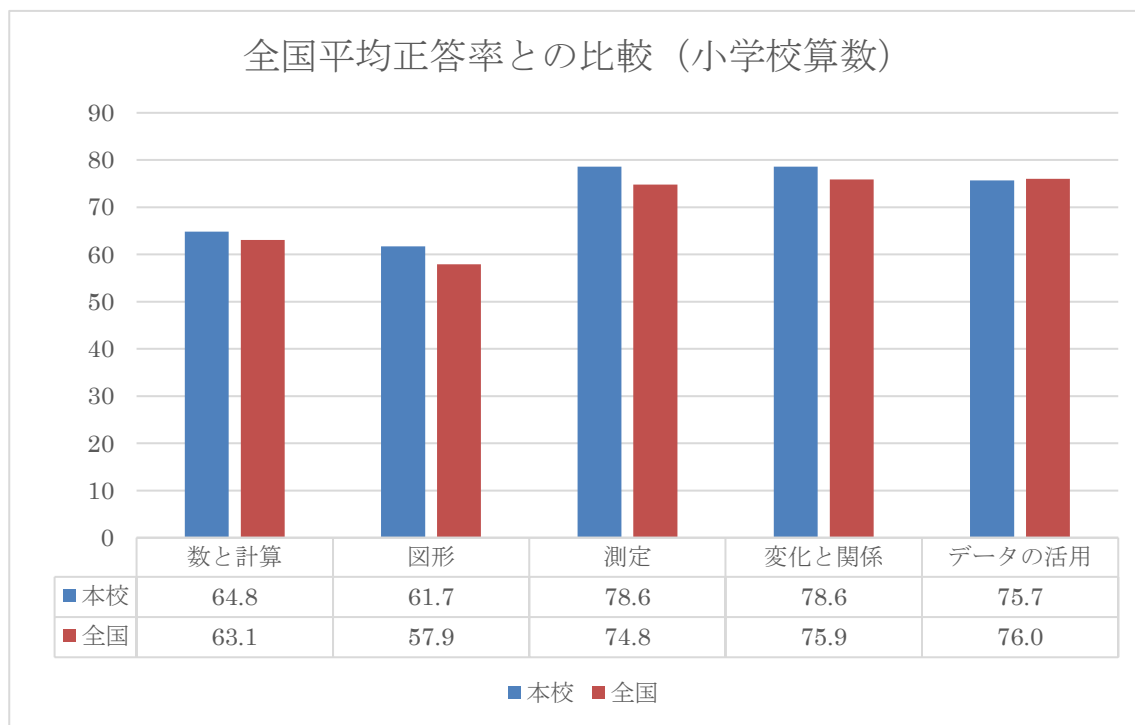
- 記述力を更に高めるために、条件に沿って文章を書いたり、指定の文字数で要件を伝える文章を書いたりする活動を、授業に取り入れます。
- 校内研究では「学習課題」に関連して児童の意欲を高める「問い」について言葉を根拠に考えたことを書いたり、学び合ったりする授業づくりを行っています。
- 学習の振り返りの時間を大切にして、主体的な学習態度の育成を目指します。

【ご家庭では】

- 家庭での会話の中に新聞記事を取り上げるなど、自分の考えを述べる経験が積めるように心がけてください。
- 音読や漢字の書き取りなど家庭学習に目的をもって取り組ませ、何ができたのか、具体的にほめることが学習意欲の向上にもつながります。
- 本を読む習慣や文章を書く習慣を付けさせましょう。親子読書や日記がおすすめです。

2 算数

(1) 結果



領域別に見ると、4つの領域で全国平均を上回っていました。「データの活用」の領域において、全国平均より0.3ポイント低い結果でした。

設問ごとの無回答率も、全国平均に比べて低い結果でした。

(2) 成果と課題

ほとんどの設問において全国平均を上回る結果でした。

説明することに課題が見られます。説明内容が不足していたり、○を1としたとき、□がいくつにあたるかの割合を言葉で説明することができていなかったりする傾向がみられました。論理的な記述ができる力を高めていく必要があります。

(3) 学力向上のための取組

【学校では】

- 基礎的な技能の確実な習熟を行います。また習熟差に対応して、理解が不十分な児童の支援に全職員で取り組みます。
- 課題解決型学習の定着を図り、「学び合い」と「振り返り」をテーマに掲げ、児童の思考の練り合いを意識した授業づくりを行っています。
- ノート指導を充実させて、きめ細やかな指導、児童が分かる授業に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんの「何を学習しているか」「どれくらい理解しているのか」など学習状況を把握し、ときには一緒に難しい問題を解き、学習を通してお子さんとコミュニケーションをとっていただけると、お子さんのやる気アップにつながります。
- 一緒に買い物をするときなどに、算数で学んだことを日常生活の中で生かす場面をつくってください。「便利だな」「おもしろいな」「役立った」と思う経験が、学習意欲につながります。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

児童の生活や学習に対する意識について質問した中で、学習状況に影響する主な設問について取り上げました。ここでの数値は「当てはまる」の割合（％）です。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	25.4	31.2
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。		
「3時間以上」	7.4	11.6
「2時間以上、3時間より少ない」	12.3	15.3
「1時間以上、2時間より少ない」	33.6	35.6
「30分以上、1時間より少ない」	34.4	24.5
「30分より少ない」	9.0	9.5
「全くしない」	3.3	3.5

《生活習慣・夢や目標・規範意識》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	84.4	85.8
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	34.4	38.3
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	54.9	55.0
難しいことでも挑戦していますか。	26.2	24.4
自分には、よいところがあると思いますか。	31.1	36.2
将来の夢や目標がありますか。	59.0	60.2
携帯電話、スマートフォンやコンピュータの使い方について家の人と約束したことを守っていますか。	39.3	38.0
人が困っているときは、進んで助けていますか。	44.3	43.6
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	80.3	84.1

(2) 改善に向けての取組

【学校では】

- 授業での学習内容を、その日の自宅学習に生かすような宿題の内容や分量の工夫をすることで、自宅学習の質を高め時間を確保します。
- 学校全体で学習や生活について、一人一人の児童の伸びを見逃さずに、認め励ますことで自己肯定感や向上心を高めます。
- 新聞やニュースなどを学習活動に取り入れ、社会への関心を高めます。
- 学級通信やホームページを通じて情報を発信し、家庭や学校での様子や将来のこと等についての話題を提供します。
- 読み聞かせや良書推薦、親子読書などを活発に行い、読書への関心を高めます。

【ご家庭では】

- 「早寝早起き朝ごはん」「高小流あいさつ」や家庭学習、規律正しい生活を習慣付けることや時間の上手な使い方などに気を付けることが大切です。
- 予習と復習など家庭学習の習慣化のため、落ち着いた雰囲気を取り組ませてください。
- 学校や地域の身近な話題を、家族の会話で取り上げるよう心がけてください。
- テレビやゲーム、スマホ・ケイタイ等のルールを話し合い、生活のリズムを整えさせるように心がけてください。